





### Driver.1 石浦 宏明

今週はキャンディ車庫からのセッションでも速く、決勝前もセットアップに悩みました。自分たちは、タイヤが少し磨耗して来たという状況で、予選よりも速いペースで走ったので、磨耗がタイヤを消耗し、つづいてくることで磨耗が速いペースで進んでいきました。チャンピオン選手がピットインした後の後方でアツクはしたものの、そこでギャップを別れたことはできませんでした。悔しい結果ではありますが、速さを見せることができました。シーズンを考えてもまだチャンスがあります。チャンピオンシップに対して、今日の表彰台獲得で諦めたとはいえず、残り3戦、勝負していきたいです



### Driver.2 国本 雄資

スタートタイヤは磨耗しましたが、ミディアムタイヤにするのを諦めました。そうすると、前半のスタートで同じタイヤが磨耗した。スタートのペースが速いので、直上にはいけず順位は下がる。そのためにもスタートで磨耗を抑制したいと考えていました。スタートは決まらされたし、きちんとミディアムタイヤでトップになったのが、表彰台獲得までポジションを上げられた大きな要因だと思います。ソフトタイヤで長い距離を走ることにしましたが、ピット作業のタイミングも良く、誰もいない場所で常にフッシュを走りました。最後の10周くらいは、前に追いつけるほどのギャップでもなかったです。タイヤに同じでも磨耗が速いペースで進んでいたので、ペースをコントロールしながら走り続けた。バトミは少なかったです。タナレースでした。何とか3位を獲得したのは良かったです。チームにも感謝しています。次のでも、しっかりとポイントを獲得したいと思います

# 完全覚醒連続入賞



**監督 立川 祐路**

国本は最終的にも強い走りを見せてくれました。ソフトタイヤでかなりの周回数を走るといっていいですね。国本がしっかりこなしてくれました。石浦は、出来ればキャンディ選手の前に出たいのですが、相手も速かったですね。悔しいながらも、決勝の機会ですが、今回は2台とも速く走り、悔しい気持ちもありますが、そんな中で最大限できることはみんなこなしました。チャンピオンシップを考えても次につながる戦いができたと思います。残り3戦で、チーム初の1-2フィニッシュを果たしたいですね

**Race Report**  
**Round.4 FUJI SPEED WAY 7/8 Final 決勝 2018年7月8日 富士スピードウェイ**  
**天候:晴れ/コース状況:ドライ/Time [1:20'4.286]**

INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [http://www.inging.co.jp] INGINGNEWS PAPER VOL.05

目をくする変わる天気と闘争された昨日から一転、決勝日の朝は昨日に比べると落ち着いた空模様で、朝のフリー走行はドライコンディションで行われた。予選日まではウェットタイヤでの走行がほとんどだった。どのチームもスリックタイヤでのマシンセットアップはこの30分の間に決めなければならぬ。JMS P.M.U. CERUMO-INGINGの2台は、国本がソフトタイヤでのロングランチェックを、石浦はセッションの後半からはミディアムタイヤの確認をした。それぞれ6番手、5番手でセッションを終え、決勝レースに向けた準備を進めていった。相変わらず朝からの曇りは残っていたが、決勝レースのスタートが迫ってくるにつれだんだん、空の色も明るくなり、それに合わせて気温と路面温度も上昇。気温30℃、路面温度37℃とこの週末で一番高い数字を記録する中、決勝レースがスタートした。3番グリッドの石浦を食み、上位4台がソフトタイヤでのスタートを選択。1コーナーでの遅れをうまく切り抜けて2番手に浮上した石浦は、トップを走るニック・キャンディ選手と約1秒の差で周回を重ねていく。上位2台だけが1分25秒のラップタイムを記録し、毎ラップ1-2秒上回るペースで3番手争いは、膠着状態が続いていた。2人ともソフトタイヤでロングステイを戦う作戦で、勝負の行方はピット作業のタイミングにゆだねられた。35周を終えたところで、一足先にキャンディ選手がピットイン。視界がクリアになった石浦はソフトタイヤで最後の猛アッシュをかけた。その5周後にピットへ。タイヤ交換後、わずかにキアの入りが鈍り、いくらかのタイムをロスしながらコースへ戻った。更にキャンディ選手もこの5周でピットインしていたことから、残念ながら逆転はならず。石浦は最後まで懸命にギャップを削っていたが、惜しくも2位でチェッカー、優勝を逃

**総監督 浜島 裕英**

国本は、ドライバーもエンジニアもメカニックも、すべてが良かったですね。アクシデントも何も走り切り、あそこまで順位を上げられて良かったです。石浦に関しては、相手も速かったですが、磨耗を抑制して進んでいくことが出来たのは、本当に素晴らしいと思います。と、強い2台揃っての表彰台獲得は、欲はらずに言えば非常に良い結果です。次は2位で1-2フィニッシュですね。チャンピオンシップも連戦に向けて頑張りたいと思います

える速さがあっただけに悔しい結果ではあるものの、今季初表彰台獲得となった。早めのピット作業でアッシュを削っていた国本は、上位陣がピットに入るにつれて徐々にポジションアップ。全軍がピット作業を済ませた時点で3番手で順位を押し上げていた。しかし前を行く石浦との差は大きく開いてしまった。終盤はタイヤマネジメントを意識してペースコントロール。ポジションアップでチェッカーを受け、こちらも今季初表彰台獲得となった。2台揃っての表彰台獲得は、2016年の第7戦以来。この結果により、石浦はドライバーズランキング3位、国本は7位に、チームランキングはトップと僅差の3位につけることになった。シーズン折り返し地点のラウンドは2台揃って速さを見せ、大きな収穫を得るレースとなった。チャンピオンシップ連戦に向け、後半3戦もチーム一丸でさらに上位を目指そう。